

# 福祉経済論

担当者 山内 康弘

開講時期 後期

単 位 2

## ●講義の概要

経済学のアプローチにより、我が国の福祉政策の現状及びその理論的背景について理解することを目的とします。まずこの講義を通じて何を学ぶのか、福祉政策とは何なのかについて、いろいろな見地から検討します。また、我が国の福祉政策の現状を、統計を駆使して、できる限り客観的に把握することを試みます。さらに、福祉政策の財源となる租税や社会保険料の負担を通じた国民負担の現況と、国及び地方を通じた財政の収支状況についてとりまとめます。そして福祉政策を通じた所得再配分のあり方とその効果について確認します。当該講義では、近年トピックスとなっている介護問題を中心に取り上げる予定です。特に、介護については、医療サービス（特に急性期医療）との相違を踏まえたサービス提供のあり方の確認、2000年に創設された公的介護保険制度の効果と課題などについて検討します。

## ●講義の到達目標

我が国における福祉政策の課題と解決策を経済学のツールを用いて客観的に説明することができることを目標とする。

## ●講義計画

- 第1回：福祉経済論と社会保障
- 第2回：福祉サービスの経済的特徴
- 第3回：社会保険制度としての福祉サービス
- 第4回：福祉サービスの社会化
- 第5回：介護サービスの現状と費用
- 第6回：介護保険制度のしくみ
- 第7回：介護サービスの財源と負担
- 第8回：介護サービスの給付とマネジメント
- 第9回：制度設計における課題検討（1）：財源
- 第10回：制度設計における課題検討（2）：保険の範囲
- 第11回：制度設計における課題検討（3）：現金か現物か
- 第12回：制度設計における課題検討（4）：自己負担
- 第13回：制度設計における課題検討（5）：予防の強化
- 第14回：制度設計における課題検討（6）：供給体制の効率化
- 第15回：全体にわたる総括

## ●成績評価基準と方法

### 1. 評価方法

平常における講義への参加度、報告や発言・討論、課題レポートにより総合的に評価する。

### 2. 割合

講義への貢献度（40%）、課題レポート（60%）

### 3. 評価基準

- 1) 毎回のテーマについて、論点を適切に理解し、説明することができるか。
- 2) 我が国における福祉政策の課題を把握し、説明することができるか。
- 3) 我が国における福祉政策の課題の解決策を経済学のツールを用いて客観的に説明することができるか。

## ●テキスト又は参考文献

—テキスト—

特に指定しない。必要に応じて、担当者オリジナルの講義資料を配布します。

—参考文献—

小塩隆士（2013）『社会保障の経済学（第4版）』日本評論社  
その他、欧文・邦文の学術論文を中心に紹介します。

## ●受講上の留意点

受講生の人数に応じて、講義内容に関する報告、討論を中心に進めます。受講生は、報告の際、レジメの作成、コピー、配布を必要とします。受講者は、基本的に、学部レベルの経済学の知識を有していることを前提に講義を進めます。毎回の授業範囲を復習し、分からなかった概念等を理解しておくこと。